

主題：グッドニュース・パースン

聖書箇所：マルコ5：21-43、ヤコブ4：10、詩編56篇

今日のヤコブの箇所からは「賛美とのろいが同じ口から出てくるようなことがあってはなりません。」とあります。みなさんはのろいを口にしない、絶対にしない、と誓えますか。私はできません。のろいをすぐ口にしてしまう者です。またのろいの言葉を真に受けてすぐに影響を受けてしまう者でもあります。

今から10数年前、当時の主任牧師、ジョシーに呼ばれました。「この前礼拝の司会中に、遠藤君が口にした冗談につまずいたという年配のご夫妻がいる。謝った方がいいぞ。」と言うことでした。なるほど、ということであやまりました。それはそれで終わったのですが、しばらくしたら、こんどは別の方から、「遠藤さんの司会は最近、淡々とし過ぎで、切れに欠ける。もっと楽しくやって。」と言われてしまいました。どちらもいい意見なのですが、私にとってはのろいの言葉に聞こえて、「これはもう司会をやめよう。」と思うようになってしまいました。悪魔の仕掛けですね。

のろいの言葉にいかに対処するか。これは人生の鍵ではないでしょうか。のろいを口にしない、のろいを気にしない、と決心してもなかなかできません。そこで止まってしまいます。しかし主はのろいを口にしないだけでなく、「のろいを賛美にかえてしまえ」と言われているのだ、とふと気づかされました。

マルコの箇所ではイエスが、ヤイロの娘の病気を治すために急ぎます。その道中、長血の女をいやし、彼女は喜びますが、そこで時間を取られます。するとその場にヤイロの使用人が駆けつけ、娘の死を知らせました。グッドニュースとバッドニュースが同時に訪れました。女は自分が引き止めたせいで、と罪悪感にとらわれ、ヤイロは悲しみにくれたのではないのでしょうか。皆さんならどうしますか？何と言いますか？私なら心の中でヤバいなあと冷や汗をかきつつ、「取り合えず行ってみよう」というぐらいで何も特別なことはできません。皆さんはどうでしょうか。

主イエスは言いました。「恐れなくて、ただ信じていなさい。」このことばは驚嘆に値します。こういう人がいるのでしょうか。そしてイエスは自分の言葉を立証するかのよう、娘を生き返らせました。

恐れなくてただ信ぜよ。これも考えてみれば酷なことばです。そこには人間には克服できない死の現実がある訳で、人はその無力感に縛られてしまうのだと

思います。ではなぜ、イエスはこんな言葉を口にできたのでしょうか。それはご自身が父なる神を信じ、信頼していたからではないでしょうか。

さらに主は私たちにこう言っているのです。「あなたは今悲しみのどん底にいる。しかし、そこから立ち上がり、その出来事も必ず益に変えて行く。私は恐れずにあなたを信じよう。」主はこのような私たちをも信じ、信頼してくださっているのです。「恐れずにただ信ぜよ。」これは主の私たちに対する信仰宣言だと思うのです。

あなたは今、苦しみの中にありますか。それで挫折しましたか。もしかしたら主を裏切るかのような行為があったかもしれません。しかし、それらすべてを承知の上で主は「恐れなくて信ずるよ」と言っておられます。何と感謝なことでしょうか。